

第2刷で訂正(2020年7月1日公開分)

頁	誤り	正
103頁 図Ⅱ-1-75 右「呼気時」イラスト上	横隔膜が収縮している	(文章を削除)
209頁 右段「C 重要な静脈内投与薬-1輸液製剤」上から3行目	…(1日1500~2500L)…	…(1日1500~2500mL)…
359頁 図Ⅲ-2-37 右上囲み3-4行目	※2 コーマックグレード1の場合ではBURP法を行ってもよい。	※2 コーマックグレード1でない場合にはBURP法を行ってもよい。
383頁 左段「M 静脈路確保と輸液-2適応」上から1行目	以下の(1)~(4)すべてで15歳以上の傷病者を対象とする。	(文章を削除)
383頁 左段「M 静脈路確保と輸液-2適応」上から5行目	(2) 心臓機能停止例:…	(2) 心臓機能停止例[8歳以上(推定も含む)]:…
383頁 左段「M 静脈路確保と輸液-2適応」上から7-9行目	(3) 増悪するショックである可能性が高い場合、またはクラッシュ(圧挫)症候群を疑うか、それに至る可能性が高い場合:…	(3) 増悪するショックである可能性が高い場合、またはクラッシュ(圧挫)症候群を疑うか、それに至る可能性が高い場合[15歳以上(推定も含む)]:…
383頁 左段「M 静脈路確保と輸液-2適応」上から12行目	(4) 低血糖症例:…	(4) 低血糖症例[15歳以上(推定も含む)]:…
389頁 右段上から16-17行目	⑦アドレナリン投与後1分後に心電図波形と総頸動脈を確認する。	⑦アドレナリン投与後約2分後に心電図波形と総頸動脈を確認する。
390頁 写真Ⅲ-2-79 写真右の説明文	⑤⑦ 上肢を10~20秒程度挙上させ、アドレナリン投与後1分後に心電図波形と総頸動脈を確認する	⑤⑦ 上肢を10~20秒程度挙上させ、アドレナリン投与後約2分後に心電図波形と総頸動脈を確認する
707頁 左段下から5行	…あるいは橈骨動脈が触知可能である場合…	…あるいは橈骨動脈が触知可能である場合…
713頁 左段下から3行	…静脈が圧迫されて静脈灌流を妨げるので…	…静脈が圧迫されて静脈還流を妨げるので…
813頁 左段上から11-13行目	体温が1℃低下することに代謝は5% 低下する。体温が10℃低下すれば代謝は50% 低下するため、酸素需要量が低下して生	体温が1℃低下することに代謝は約13%低下するため、酸素需要量が低下して生存の可能性が延長される。 (「。体温が10℃低下すれば代謝は50% 低下する」を削除)